

大学連携だより 第40号



令和2年3月27日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

相互交流システムの活用



連携大学と本市学校の相互交流が年々増加しています。令和元年度は、教職員育成課が把握しているだけでも、延 579 人の方々が相互交流を行っています。

今回は、横浜市公立学校事務職員研究協議会が横浜薬科大学に依頼した事例と、横浜創英大学が若葉台特別支援学校に依頼した事例について、それぞれレポートを頂いておりますので、御紹介します。

【相互交流レポート1】横浜市公立学校事務職員研究協議会（以下、学校事務研究会）の方から

講演名 「カリキュラム・マネジメントに生かす各種データの活用について」

講師 横浜薬科大学教授（教職課程センター長） 福田 幸男 先生

実施日 令和元年12月4日（水） 15:15～16:45

● 学校事務研究会と大学連携

学校事務研究会では過去2回、教職員育成課が実施している「大学との相互交流事業」を活用しています。学校事務職員の資質向上のために教育にかかわるテーマの研修を実施するという目的から、連携大学の教授による講演を行っていただきました。（過去2回は「インクルーシブ教育」と「小中一貫教育」について。）今年度は「カリキュラム・マネジメントに生かす各種データの活用について」というテーマで、横浜薬科大学教授の福田幸男先生に講演を行っていただきました。



● 学力・学習状況調査等から分析する育てたい子ども像

講演では全国や横浜の学力・学習状況調査等を例に挙げ、カリキュラム・マネジメントに生かす正確な実態把握をするためのポイントをお話いただきました。単年度における教科学習の状況分析はもちろん、経年変化の状況と要因の分析は、次なる目標と具体策を掲げる根拠となります。今、横浜で取り組まれている小中一貫教育、つまり9年間で育てたい子ども像を描くためにも、経年変化を表すデータ分析は特に重要な役割であることがわかりました。

● 学校事務職員とカリキュラム・マネジメント

教育内容の質の向上に向けて、学校事務職員の立場からどのようなマネジメントへの関わり方が求められているのでしょうか。私たち学校事務職員も、多様化・複雑化する学校課題に取り組むためにチーム学校の一員として専門性を発揮することが大切です。そのひとつが「エビデンスベースド（evidence based）」の考え方です。先生からは「分析や情報操作に長けている事務職員の力の発揮を期待したい」と熱いエールをいただきました。

● エビデンスに基づく教育を目指して

新しい教育課題に人的・物的資源を効果的に活用するために、教育実践に投資する予算の判断材料（「何をすべきか、いくら費やすべきか」という判断材料）が求められています。また、実践後の教育効果に対し説明責任を果たすためのエビデンス（「果たして効果はあったのか」という実証材料）も重要です。これらは事務職員の力の見せどころです。貴重な大学連携の場を通じて、新しい時代の教育に学校事務職員が貢献しうる道標を得ることができました。



【相互交流レポート2】横浜創英大学の学生の方々から（抜粋）



教職実践演習における若葉台特別支援学校の一身体験

※2名の学生のレポートから抜粋しています。

～個別性に配慮した関わりの工夫について～

私は数カ月前に、小学校にて一カ月間養護教諭の実習を行いました。今回の特別支援学校の体験では、小中学校の養護教諭と特別支援学校の養護教諭の役割はどのような違いがあるのか、特別支援学校の養護教諭はどのような視点をもっているのかなど、多くの疑問をもって実習に臨みました。

若葉台特別支援学校の養護教諭の方からお話を頂き、養護教諭と他の職種間の連携が非常に重要であると学びました。日々、教員との連携を密にとり、児童生徒の状態や健康問題について話し合うことで、どのような関わりをすべきか検討したり、必要に応じて医療機関につなげたりと、児童生徒の健康を守る上で求められる役割は大きいと思いました。

特別支援学校における養護教諭の職務には、小中学校にはない独自の専門性があり、日々先生方が子どもたちの個別性に配慮した関わりができるように連携・調整し、障害のある子どもたちが今の健康状態を損ねることなく、毎日温かい気持ちで登校し、楽しく過ごせるように働きかけているのだ、ということを知りました。

～特別支援学校の先生方は、児童生徒に対しどのような支援をしているのか～

私は今まで特別支援学校に行ったことがなかったため、「『特別支援学校の先生方は、児童生徒に対しどのような支援をしているのか、また、児童生徒にどのようなことを学んでもらいたいのか』、について学ぶ。」という目標をもち一身体験に臨みました。

先生方は、一人ひとりの児童生徒に対し、異なるコミュニケーションのとり方を行っていました。会話によるコミュニケーション以外に、眼球の動きで「はい」か「いいえ」かを判断したり、口を動かしたり、目をつぶったり、ボタンを押したりと実に様々なコミュニケーションの方法を実践していました。先生が児童生徒に話しかけ、児童生徒の表情や体の動きなどの反応をみてコミュニケーションのとり方を見つけていく、と教えていただきました。

児童生徒によりできることも異なるため、それぞれのもっている能力を考慮した目標を、先生方が考えていることも学ぶことができました。生徒ができることを増やす、という目標のほかにも、得意なことを見つける、得意なことを伸ばす、苦手なことにも取り組む、笑顔の時間を増やすなど、様々な視点の目標を先生方が考えていることがわかりました。児童生徒と関わり、理解していくことが重要ということを学ばせていただきました。

大学連携だより 第39号

令和2年3月5日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

より自律的に学び続ける教職員を目指して～「横浜市 人材育成指標」を改訂します～

令和2年3月「横浜市 人材育成指標」を改訂します。今回の改訂のコンセプトは「セルフ・マネジメント」です。横浜教育ビジョン2030に掲げた「自ら学び 社会とつながり」とともに未来を創る人を育てるためには、児童生徒にとって最大の教育環境である教職員が、自ら考え、自ら判断し、より自律的に学び続けることが大切であり、こういった姿勢が今後一層求められるからです。

本号では、人材育成指標がどのように変わったのかを伝えるとともに、セルフ・マネジメントの進め方を掲載しています。自分に合った活用の仕方や進め方を見付け、児童生徒の輝く笑顔のため、自分の力を更に高め、磨いていきましょう。

人材育成指標は、どのようなところが変わるのですか？

新しい人材育成指標は、資質・能力を示したものと、視点が加わったものがあります。これにより、文字数が減り、視覚的に捉えやすくなりました。求められる資質・能力は「教職の素養」「専門性」「マネジメント」の3つに整理しました。

さらに解説！

新しい人材育成指標では、それぞれの資質・能力の高め方や磨き方を明示しています。教職員の専門性は、生活背景も含めた「子ども理解」が基本になっていることを打ち出しています。資質・能力をより具体的に捉えたい場合には、視点を加えたものを確認します。

人材育成指標は、どこで見ることができますか？

令和2年4月に、全教職員へリーフレットを配付します。また、学校掲示用にポスターを配付します。リーフレットには、資質・能力を示したものの、視点を加えたもの、この2つを掲載しています。

さらに解説！

指標に関する資料や情報は、次のYCANページから

YCANトップ→右上「区局Web」→教育委員会事務局→その他のリンク「人材育成指標システム」

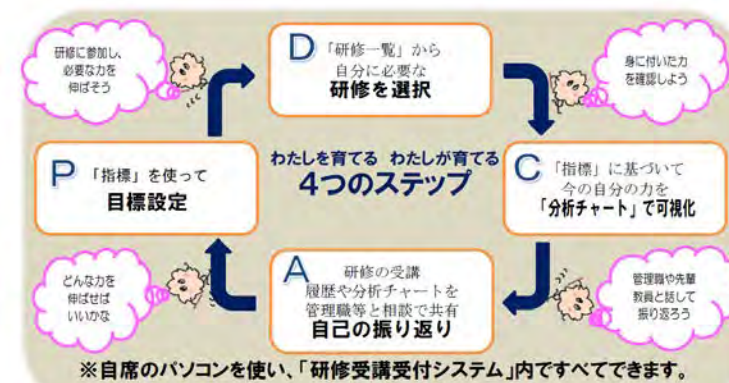


さらに詳しく

わたしを育てる わたしが育てる ～はじめよう セルフ・マネジメント～

セルフ・マネジメントについて、詳しく教えてください

これからの教職員に求められているのは、やはり「主体的な学び」です。セルフ・マネジメントは、PDCAの4つのステップで進めていきます。



さらに解説！

教職員自身が主体的な学びをとおり、自分の力を、自分で育てていくことが「セルフ・マネジメント」

です。セルフ・マネジメントを自覚し、好循環を生み出そうとすることで、学びの質が高まり、自分自身を磨くことにつながります。教職員自身がよりよくありたいと願い、自らを高め続けようとするのが、児童生徒の更なる成長や輝く笑顔につながります。

セルフ・マネジメントのPDCAの4つのステップは、いつでも、どこからでも始めることができます。

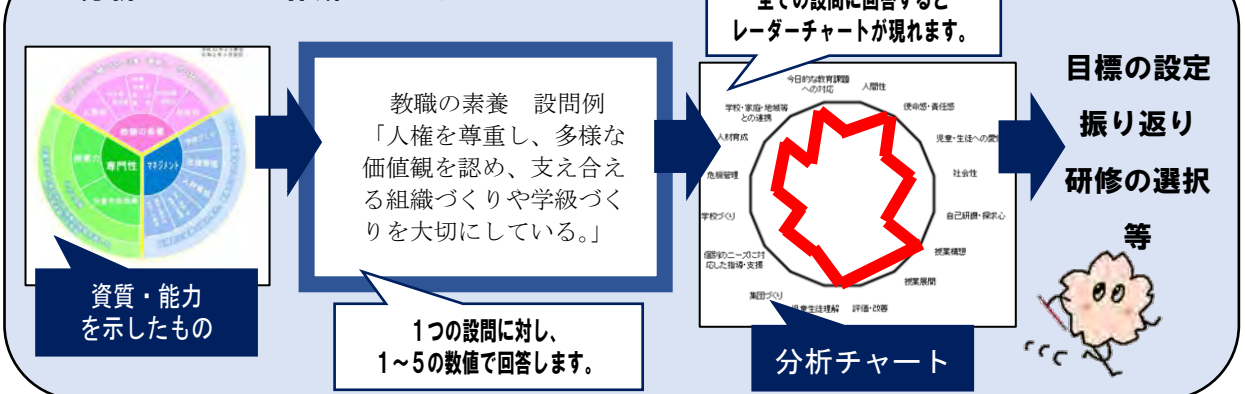
具体的にどうやってはじめるのですか？

自分の力を更に高めるセルフ・マネジメントを進めるためには、適切な目標設定とじっくり振り返る（内省する）ことが大切です。根拠をもって目標設定や振り返りを行うために、分析チャート（レーダーチャート）を作成し、活用することをおすすめします。

さらに解説！

人材育成指標で求められる資質・能力が、今の自分にどの程度身に付いているのかを確かめたり、自分の強みや課題を把握したりすることが、自席のパソコンでできるようになります。下の図のように、いくつかの設問に答えると、今の自分の力が分析チャート（レーダーチャート）として可視化できます。分析チャートは、年度始めの目標設定や年度末の振り返りの際等に活用することができます。また研修を選択する際に、分析チャートと照らし合わせることで、今の自分にとって必要な研修を検索することができます。セルフ・マネジメントの第一歩として、まずは分析チャートを作ってみませんか。

分析チャートを作成してみましょう



大学連携だより 第38号



令和2年2月14日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

令和2年度 新規採用候補者 採用前研修

令和2年1月19日(日)花咲研修室にて、「令和2年度新規採用候補者 採用前研修」を行いました。任意の研修ですが、新規採用候補者のうち、受験区分小学校教諭183名、中学校・高等学校教諭62名、特別支援学校教諭11名、養護教諭13名、学校事務職員8名、学校栄養職員4名が計281名参加しました。

採用前研修全体のねらいは、「令和2年度新規採用候補者が、教職員としての学校生活に見通しをもち、4月から児童生徒の前に立つ際の心構えや、4月1日までに取り組むべきこと等を確認し、横浜市の教職員として安心して着任できるように準備する」とし、この日のねらいを「横浜市の教育やめざす教職員像について知ることを通して、教職員になる自覚を高め、4月までに準備する内容について具体的な視点をもつ」としました。



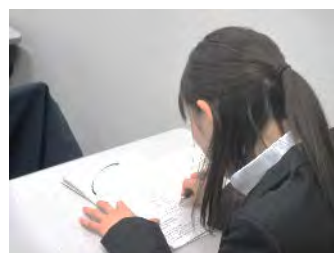
学び続ける教職員として ~セルフ・マネジメント~

「横浜市の教職員は自ら学び続け、資質・能力の向上を図り、使命感や情熱を持って職責を果たしながら魅力ある学校をつくります」(横浜教育ビジョン2030)。

採用前研修集合研修初日の【講義1】では、まず、横浜市の教職員になることについて次のような点を確認しました。

- ◆横浜の教職員になること = 横浜で社会人になること
= 横浜で教育公務員になること
- ◆自らを管理・調整しながら自己啓発し続ける、「セルフ・マネジメント」という考え方について
- ◆「かかとを上げた経験」と「振り返り」による人材育成について
- ◆謙虚さや素直さから生まれるしなやかに生きる力について

受講生は、講義や隣同士の語り合いを通しながら、着任時の姿を見据えた「アクションプラン・メモ」を書き進めていきました。



横浜市情報として、市旗・市歌の紹介



浜菱

横浜市開港記念会館

先輩からのメッセージ ~着任までにできること~

【講座2】では、各受験区分校種や、職種にわかれて、研修を行いました。初任者としての勤務についてや、「4月までにしておくことよいこと」などについて、初任の教職員が語るメッセージビデオを視聴しました。メッセージの内容は次のとおりです。



- ◆何でも体験は視野を広げることになるが、子どもと実際に関わる経験を増やしておくこと安心です。(教員)
- ◆体調管理があるので、勤務が始まると生ものは口にできません。今から食生活には注意していく必要があります。(学校栄養職員)
- ◆業務を通して覚えていけるが、ワードやエクセルなどのパソコンの基本操作に慣れておくと、4月からの勤務がスムーズではと思います。(学校事務職員)

さらに、業務特性に関する内容と併せて、

- ◆とにかく、先輩が教えてくれるから大丈夫です。
- ◆わからないこと、積極的に聞いていけば教えてもらえます。
- ◆子どもたちとの生活は楽しいです。ぜひ、楽しみにしてください。

といった、受講者への心温まるメッセージを共有することができました。

これだけは準備しよう ~仲間づくり演習：名刺交換~

受講者は、一日の講義や演習、メッセージビデオを視聴して、4月までに「しておくべきこと」や、「しておきたいこと」など、多くの視点からアクションプラン・メモを増やしました。

【講座3】では、講座の中で、同期となる採用候補者の仲間づくり演習を行い、自作の名刺カード交換をしました。5枚のカード全てに、「これだけは4月までにしておきたいと思うもの」を一つ記入し、裏に校種・氏名・自己PRを記入します。お互いに声をかけ合い、準備する物が同じだったらカードを交換して自己紹介し、書いてあるものが違ったら、カードの紹介だけで、交換はしない、というルールでした。活動は10分間程度でしたが、皆、リラックスして互いに話しかけ、笑顔で交流を図っていました。

演習の最後には、横浜市教育委員会教職員育成課指導教官から、「横浜の教職員になることや着任までに準備しておくこと」などについて、指導・助言がありました。

最後に、中学校・高等学校・養護教諭受験区分、特別支援学校・学校栄養職員受験区分の研修室では、健康教育課 片山課長から「ハマ弁」についての説明が行われました。

今回は、3月23日(月)~3月25日(水)までの3日間連続で行います。3月24日(火)には、各方面学校教育事務所での研修や、職種別の研修を実施する予定です。



令和2年度 新規採用候補者
「採用前研修」WEBページ
<https://www.edu.city.yokohama.jp/tr/ky/k-center/saiyomae.html>

二次元バーコードから



大学連携だより 第37号



令和2年1月17日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

「教員の資質・能力の向上」に係る取組発表会

令和元年12月20日(金)、花咲研修室にて、大学連携・協働協議会の関連事業として、「教員の資質・能力の向上」に係る取組発表会を開催しました。当日は、大学、本市学校、教育委員会事務局、合わせて21団体がポスターセッション形式での発表を行いました。当日は、大学教職員、学校管理職及び教員、大学生、高校生等、総勢約250人の方々に御参加いただきました。対話や体験を通して、様々な立場の方々が交流を深めていました。



会場の様子

発見！「横浜の魅力」「教師の魅力」～見る！対話する！感じる！

平成27年12月中央教育審議会答申の中で、教員の養成・採用・研修の一体的な改革が必要、ということが謳われています。それを実現するための第一歩として、大学等、学校、教育委員会が連携し、まずはお互いの取組を知る、ということが大切です。さらには、少子化が進む中、高校生や大学生に早い段階から教職について関心をもってもらうということも重要です。

今回の取組発表会は「教員の資質・能力の向上」という共通のテーマのもと、発表団体の皆様には、「教師の魅力」や「横浜の魅力」を十分に伝えていただきました。その中で参加者同士の様々な交流が生まれました。このような交流が、更に広がるような支援を今後も行っていきます。

今回の取組発表会は「教員の資質・能力の向上」という共通のテーマのもと、発表団体の皆様には、「教師の魅力」や「横浜の魅力」を十分に伝えていただきました。その中で参加者同士の様々な交流が生まれました。このような交流が、更に広がるような支援を今後も行っていきます。



【本牧中学校】あなたの個性が発揮できる全職員による学校づくり



【横浜国立大学教職大学院】横浜市教育委員会と教職大学院の連携による研修の取り組みー経験学習を促すツールの活用ー



【教育委員会事務局】教職員の働き方改革～先生のHappyが子どもの笑顔をつくる～

参加者の声

高校生

- ・知りたかったことや、今まで知らなかったことを聞いてとてもよかったです。
- ・内容の濃い話を聞いて、とてもためになりました。
- ・丁寧に質問に答えてくださり、悩みが晴れました。

大学生

- ・同じ教員を目指している人たちとの交流は、今後の励みになりました。
- ・とても親身になって色々な話をさせていただき勉強になりました。
- ・模擬授業をしてくださり、より自分の中のイメージができました。また、不安を無くしていける取組についても説明していただきました。

採用予定者

- ・先生方の子どもたちへの熱い思いが伝わり、春から横浜の教員になることができよかったです。
- ・授業改善に前向きに取り組んでいることが分かり、自分も頑張りたいと思うことができました。
- ・高校生から現場の先生方まで、色々な立場の方が集まることのできる場所があることは、とてもすてきだと思いました。

大学関係者

- ・働き方改革の「教職員が元気になる取組」が参考になりました。
- ・どの学校も熱心に説明してくれて意欲を感じました。
- ・他大学の教員養成について知ることができてよかったです。

学校関係者

- ・大学の関係者の方と直接話をする事ができてよかったです。
- ・現任教でのもやもやとしている課題を解決するための糸口や、新しい人とのつながりが数多く得られてよかったです。
- ・もっと、現場の先生や生徒たちにも見てもらいたいと思いました。



國學院大学「新しい教育課程の基準とこれからの教育・保育」～育成を目指す資質・能力と評価～



大学生が発表。高校生と大学生の交流も生まれました。



うまくできるかな

【関東学院大学】多様な学生同士の学び合いによる教員養成の工夫

模擬授業を実施

【釜利谷南小学校】チーム学校として、拡大メンターチームで学び続け、全職員が個々の力を発揮し、子どもの成長ファーストで、豊かな教育活動ができる学校づくりをめざして



【若葉台特別支援学校】東京2020パラリンピックで実施される正式種目「ボッチャ」を体験しよう！

大学連携だより 第36号

令和元年 11月20日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

12月20日(金) 14:45~16:45【花咲研修室】

「教員の資質・能力の向上」に係る取組発表会 に参加しませんか？

内容は？

本取組発表会は、本市学校代表や連携大学代表のポスターセッションの見学を通して、交流を深めたり、情報交換を行ったりする場です。各団体のテーマは右のページを御覧ください！

見に行くポイントは？

横浜市大学連携・協働協議会関連事業として行うこの会には、5つのポイントがあります。

ポイント1 関心がある発表を自身で選んで見られる！

フース形式のため、自身が興味のある発表を選択し見学できます。

ポイント2 発表団体と対話ができる！

発表団体の間近でお話を聞き、発表者と対話もできます。

ポイント3 各学校の特色ある取組を聞くことができる！

右ページの9校の発表を聞き、自校の取組の参考にすることができます。

ポイント4 大学の教員と交流ができる！

大学教員と対話することで、今後の交流に発展させることもできます。(名刺交換も可)

ポイント5 教職を履修している大学生・高校生も参加！

是非、皆さまから、「横浜の魅力」「教師の魅力」を伝えてください。

★発表団体一覧★ ※50音順

■市立学校(9団体)■

◆釜利谷南小学校

【テーマ】チーム学校として、拡大メンターチームで学び続け、全職員が個々の力を発揮し、子どもの成長ファーストで、豊かな教育活動ができる学校づくりをめざして

◆下永谷小学校

【テーマ】向き合って学び合って未来をつくる下永谷のOJT

◆中村小学校

【テーマ】子どもたち一人ひとりに応じた的確なコミュニケーションスキルの育成
～「明日も学校に行きたい」と全ての子どもたちが思える中村小をめざして～

◆山内小学校

【テーマ】ダイバーシティとSDGsの実現を目指して

◆緑園西小学校

【テーマ】「持続可能」な教育実習の実現に向けて

◆大正中学校

【テーマ】授業改善に向けた生徒参加型研究協議会の実践

◆仲尾台中学校

【テーマ】新学習指導要領を見据えた校内授業研究会の取組

◆本牧中学校

【テーマ】あなたの個性が発揮できる全職員による学校づくり

◆若葉台特別支援学校

【テーマ】東京2020パラリンピックで実施される正式種目「ボッチャ」を体験しよう！

■大学(8団体)■

◆鎌倉女子大学

【テーマ】鎌倉女子大学における教員の養成及び資質向上の取組

◆関東学院大学

【テーマ】多様な学生同士の学び合いによる教員養成の工夫

◆國學院大學

【テーマ】「新しい教育課程の基準とこれからの教育・保育」～育成を目指す資質・能力と評価～

◆玉川大学

【テーマ】質の高い教員養成に向けた玉川大学の取り組み

◆日本体育大学

【テーマ】日本体育大学における実践的な教員養成(模範授業等を通じた学びと指導法の提案)

◆横浜国立大学

【テーマ】「スクールデー実践」:実践的活動を取り入れた選択型の教職科目

◆横浜国立大学教職大学院

【テーマ】横浜市教育委員会と教職大学院の連携による研修の取り組み
-経験学習を促すツールの活用-

◆横浜創英大学

【テーマ】「考えて行動できる人の育成」を目指す教育力の育成

■教育委員会事務局■

働き方改革の取組、教員採用におけるサポートについて、海外研修派遣、よこはま教師塾「アイ・カレッジ」、展示コーナー(ハマ弁)など

※前半(14:55~15:40)に発表する団体と、後半(16:00~16:45)に発表する団体があります。各団体の発表時刻は、YCAN(本市専用)、及びWebページにて公開する予定です。

横浜市大学連携・協働協議会関連事業

「教員の資質・能力の向上」に係る取組発表会の詳細、及び、申込み

令和元年12月20日(金) 14:45~16:45 於:横浜花咲ビル(横浜市営地下鉄高島町下車2分)

◆詳細・お申込み◆

YCANから YCANトップ>各区局>教育委員会事務局>教職員育成課>大学連携事業
Webから 横浜市教育センタートップ>大学連携>画面上「取組発表会」

本発表会のYouTubeも御覧ください。(上記の取組発表会Webページから)

二次元
バーコード



大学連携だより 第35号

令和元年9月25日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

連携大学と相互交流してみませんか？



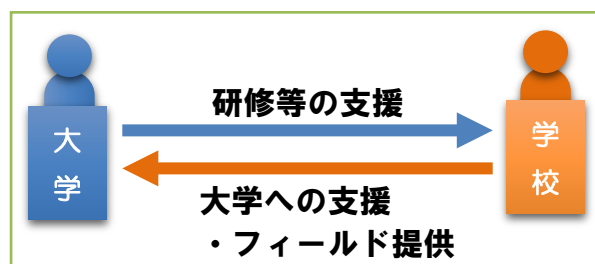
6月27日付（教教育第171号）、及び、9月5日付（教教育第486号）の通知にて、「連携大学との相互交流」についてお知らせいたしました。

相互交流とは？

本市学校と、連携大学の教員・学生にとって、相互にメリットがある交流（活動）のことです。

本市学校のメリットは、教員の資質・能力の向上等のために、専門家の知見が得られることです。

大学のメリットは、大学教員や学生が、学校教員の業務や児童生徒との接し方を知ることで、教員養成の充実につながれることです。



費用は不要

今年度から、「互いに交流相手への旅費の支給は不要」となりましたので、交流の自由度が今まで以上に向上します。

どのような形態が考えられるか？

最も多いのは、授業研究会の講師として大学教員を招へいするという形態ですが、大学の先生の中には、1回限りの関わりではなく、もっと継続的に学校と関わることができればよい、と考えている方も多くいらっしゃいます。お互いにアイデアを出し合い、一歩踏み込んだ交流ができれば、本市学校にとっても、大学にとってもよい効果が期待できます。

◆「大学連携だより」バックナンバーで紹介した相互交流事例◆

- 第1号 本市教員が授業実践力向上の一環として、大学教員の支援を受ける。大学教員のアシスタントとして学生も参加。
- 第2号 技能をもった学生が、本市特別支援学校の保健体育の授業をサポート。
- 第4号 大学教員が本市小学校教員向けに、次期学習指導要領の方向性やアクティブ・ラーニングについて解説。
- 第6号 本市小学校のメンタリングを教職大学院の教員が視察。
- 第7号 大学教員が本市教員の授業を見学後、教員心理学のアプローチでアドバイス。
- 第10号 大学教員とゼミの学生が小学校個別支援学級の授業補助を行った後、小学校内で大学のゼミを実施。
- 第11号 大学教員と二人の本市社会科教員が協働して地理的分野でESDに関連した授業づくりを実施。
- 第13号 短期の学校インターンシップの実施を検討している大学の教員と学生が、本市中学校の授業を見学。
- 第15号 平成29年度第1回横浜市大学連携・協働協議会のシンポジウムで学校インターンシップを通じた、大学、本市学校の双方にとって効果的な3つの実践事例
- 第17号 本市中学校と美術大学とのコラボレーションでプロジェクトマップを制作。
- 第25号 車いす生活の生徒が他の生徒と同様に学校生活を送れるように、大学教員が支援。

連携大学情報を見てください

交流が可能な大学教員の情報（連携大学情報）は、YCAN教職員育成課ページから閲覧できます。左記でも述べましたが、交流形態は様々で、必ずしも全教員が一堂に会する研修等でなくても構いません。例えば、特定の教科や領域の教員との交流や、学校運営協議会の有識者として、長期アドバイザーとして、共同研究等、いろいろな交流が考えられます。まずは「[連携大学情報](#)」を御覧ください。

YCANトップ > 各区局 > 教育委員会事務局 > 教職員育成課 > 大学連携関係 > [相互交流](#)

積極的な交流を希望されている大学の先生方を紹介

エントリーしている大学教員の中で、本市学校との積極的な交流を希望されている大学の先生方を紹介します。交流を御希望の場合は、教職員育成課大学連携担当まで御連絡ください。（411-0517）

● 横浜国立大学教育学部教授 山本 光 氏

【専門】 数学、情報、教育工学、プログラミング教育、著作権教育、情報モラル教育

【交流内容】 各学校に配布されているiPadの活用、各先生方のお持ちのスマートフォンの活用など。

【先生からのメッセージ】 児童生徒向けの出前授業や、学校の課題解決に向けた長期アドバイザー等、様々な交流形態が可能です。

● 慶應義塾大学、東洋英和女学院大学非常勤講師 清水 優菜 氏

【専門】 教育心理学(動機づけ)、算数・数学教育学(教授・学習法)、教育測定学(テスト理論)

【交流内容】 算数・数学の知識獲得を促す規定要因に関する基礎的共同研究、算数・数学の知識獲得を促す教授・学習デザインに関する実践的共同研究

【先生からのメッセージ】 私は児童・生徒の数学の知識獲得を促す規定要因に関する基礎的研究と教授・学習デザインの開発と実験という実践研究を進めてきました。この度は、私が進めてきた研究の一般化の可能性を高め、多くの児童・生徒の算数・数学の知識獲得を促したく思い、相互交流に登録しました。

● 横浜国立大学教育学部教授 加藤 圭司 氏

【専門】 理科教育学（教授学習論、自然認識論）

【交流内容】 学校教職員対象の講演・助言・ワークショップ開催等、授業研究実技指導、学校との共同研究

● 横浜国立大学教育学部教授 小川 昌文 氏

【専門】 合唱指揮・音楽教育

【交流内容】 どのように合唱を指導すればよいのか、基本から応用までの指導技術と理論説明をワークショップ形式で行います。【教員向け、児童生徒向けいずれも可】

【先生からのメッセージ】 積極的に学校に関わらせていただき、教育の質の向上を皆さんと共に考えていきたいです。小学校から高校生までが対象で、研究授業時は学生の同行を希望します。

★「大学連携だより」はYCAN教職員育成課ページから、PDF版をダウンロードできます。各校におかれましては、教職員の皆さんへの配付や校内での掲示等、情報共有への御協力をお願いいたします。

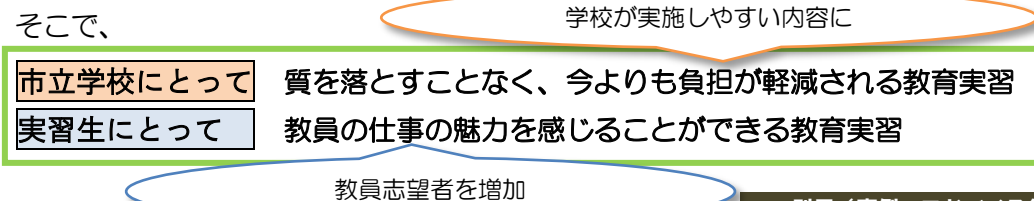
大学連携だより 第34号

令和元年8月27日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

効果的・効率的な教育実習の推進

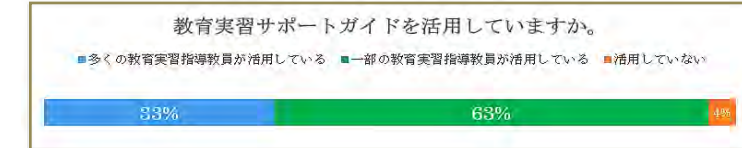
教育実習生の受入に御理解・御協力いただきありがとうございます。
昨今、教員採用試験の倍率の低下や、臨時的任用職員や非常勤講師の不足が課題になっています。この課題を解決するには、大学と連携し、教員免許状取得者を増やさなければなりません。そのためには教員実習の受入枠の確保が必要になります。
しかし、学校の業務が多忙化している中で、教育実習生を受け入れることは容易ではありません。教育実習での指導内容が多岐にわたるため、指導教員の負担が大きくなるからです。

大学連携・協働協議会で、現状に合った「より効果的・効率的な教育実習」について検討



について、大学連携・協働協議会で検討を続けてきました。特に、平成30年度の協議会では、多くの本市教員に御参加いただき、大学教職員の方々と協議を重ね、様々なアイデアを生み出してきました。

これらのアイデアは、教育実習サポートガイド及び、別冊「事例・アドバイス集」に掲載しています。教育実習サポートガイドは現在96%の市立学校で活用されています。



第2期（秋期）に教育実習を行う学校は、是非参考にしてみてください。また、教育実習サポートガイドの音声解説もありますので、こちらも御利用ください。

音声解説（YCAN 教育実習ページ）
<http://inw1.office.ycan/b/ky/ikusei/20190710160746.html>

別冊（事例・アドバイス集）に事例を掲載

事例	内容
1	授業中に校内を自由に見学
2	二人で授業
3	一人ですべての授業
4	一人ですべての授業
5	一人ですべての授業
6	一人ですべての授業
7	一人ですべての授業
8	一人ですべての授業
9	一人ですべての授業
10	一人ですべての授業
11	一人ですべての授業
12	一人ですべての授業
13	一人ですべての授業
14	一人ですべての授業
15	一人ですべての授業
16	一人ですべての授業
17	一人ですべての授業
18	一人ですべての授業
19	一人ですべての授業
20	一人ですべての授業
21	一人ですべての授業
22	一人ですべての授業
23	一人ですべての授業
24	一人ですべての授業
25	一人ですべての授業
26	一人ですべての授業
27	一人ですべての授業
28	一人ですべての授業
29	一人ですべての授業
30	一人ですべての授業
31	一人ですべての授業
32	一人ですべての授業
33	一人ですべての授業
34	一人ですべての授業
35	一人ですべての授業
36	一人ですべての授業
37	一人ですべての授業
38	一人ですべての授業
39	一人ですべての授業
40	一人ですべての授業
41	一人ですべての授業
42	一人ですべての授業
43	一人ですべての授業
44	一人ですべての授業
45	一人ですべての授業
46	一人ですべての授業
47	一人ですべての授業
48	一人ですべての授業
49	一人ですべての授業
50	一人ですべての授業
51	一人ですべての授業
52	一人ですべての授業
53	一人ですべての授業
54	一人ですべての授業
55	一人ですべての授業
56	一人ですべての授業
57	一人ですべての授業
58	一人ですべての授業
59	一人ですべての授業
60	一人ですべての授業
61	一人ですべての授業
62	一人ですべての授業
63	一人ですべての授業
64	一人ですべての授業
65	一人ですべての授業
66	一人ですべての授業
67	一人ですべての授業
68	一人ですべての授業
69	一人ですべての授業
70	一人ですべての授業
71	一人ですべての授業
72	一人ですべての授業
73	一人ですべての授業
74	一人ですべての授業
75	一人ですべての授業
76	一人ですべての授業
77	一人ですべての授業
78	一人ですべての授業
79	一人ですべての授業
80	一人ですべての授業
81	一人ですべての授業
82	一人ですべての授業
83	一人ですべての授業
84	一人ですべての授業
85	一人ですべての授業
86	一人ですべての授業
87	一人ですべての授業
88	一人ですべての授業
89	一人ですべての授業
90	一人ですべての授業
91	一人ですべての授業
92	一人ですべての授業
93	一人ですべての授業
94	一人ですべての授業
95	一人ですべての授業
96	一人ですべての授業
97	一人ですべての授業
98	一人ですべての授業
99	一人ですべての授業
100	一人ですべての授業

各学校で、様々な工夫を行っています。

各学校で実施している「教育実習の効果的・効率的な取組」

様々な学校で、従来の教育実習の形態に工夫を加えた教育実習が行われるようになってきました。その中でも多かったのは、次のような考え方です。
「指導教員1人に任せるのではなく、全教職員で取り組み、育てる。」
「教育実習指導をミドルリーダーの育成に位置付けている。」
「業務の精選のため、教育実習生への指導と初任者への指導、メンター研修等を兼ねる。」
様々な工夫を行っている学校の事例をいくつか紹介します。

☆ 経験の浅い教員の人材育成を兼ねる

- ❖ 校内での初任者研修の示範授業を教育実習期間に合わせて行っています。また、実習生が校内授業研究会に参加できるようにしています。
- ❖ 教育実習生の研究授業等をメンターチームの教員と一緒に検討したり、事後研究したりしました。
- ❖ 教育実習生への示範授業は、他の若手教員も見学できるように、授業予定日や学習指導案をデータ管理して周知しています。
- ❖ 人材育成マネジメント研修対象者が教育実習の指導教員になると、一部の研修が免除になる、という制度を生かして、指導教員の選出を考えました。



☆ 効率化を図る

- ❖ 働き方改革を意識し、実習生も定時退勤ができるよう計画的に指導を行ないました。
- ❖ 今年度から、まとめの研究授業を行わないことにしました。
- ❖ 教育実習指導教員が略案を作り、それを実習生が真似する形で授業を行いました。
- ❖ 実習生の授業実習確保のため、校長講話を事前打合せ時に前倒しで行いました。
- ❖ 教育実習開始の前に、顧問同伴で部活動見学を前倒しで実施しました。
- ❖ 初めての教育実習指導担当となった教員にとって、教育実習サポートガイドや評価支援は、効果的・効率的な教育実習を行う上で、大変役に立っていました。



☆ 実習生への配慮

- ❖ 実習生が休養をとれるよう、週半ばから教育実習を開始し、土日（休養日）を実習期間中に多く含ませよう工夫しました。（週半ば始まりにすると実習中の土日が1回分増える）
- ❖ 第2期のオリエンテーションを夏季休業前に設定し、学生が夏休みを利用して教材研究等の準備ができるようにしました。
- ❖ 指導教員、実習生ともに過重な負担にならないよう勤怠管理をしっかりと行うなどして、勤務の健全化を図っています。
- ❖ 実習生と指導教員が異性の場合は、教室で二人きりにならないよう、指導を職員室で行う等、セクハラやパワハラ等に留意しています。
- ❖ 中学校での指導だけでなく、小学校の授業や行事の参観など、義務教育学校という特徴を生かし、実習期間の中で様々な経験ができるように配慮をしています。

大学連携だより 第33号



令和元年7月10日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

令和元年度 横浜市大学連携・協議会を開催

6月20日(木)、花咲研修室にて、通算12回目の大学連携・協働協議会(以下、協議会という。)を開催しました。当日は大学等の教職員、本市の全校種の管理職及び教員、教育委員会事務局の代表者等、合わせて約180人が出席し、今後の教員養成・育成についての協議を行いました。

協議会は2部構成で、第1部では、教育長挨拶及び教育委員会事務局からの説明を行いました。鯉淵教育長は挨拶の中で次のように述べました。



第2部の分科会グループ協議の様子

「昨今、教職員の長時間労働の是正が課題となっています。本市教育委員会では昨年の3月に『教職員の働き方改革プラン』を策定し、働き方改革の視点を盛り込んだ研修を実施するなど、学校の働き方を考え、課題解決に取り組んでいるところです。さて、近年、教員採用試験の倍率の低下が深刻化しています。教員志望者の増加を図るためには、教員が魅力的な職業であるということ、大学生に感じてもらうことが大切です。そのためには、教員の養成に取り組まれている大学、そして、採用後の教員の育成に関わる学校現場や教育委員会が、『よりよい養成・育成の在り方』について、一緒に考えていく必要があります。養成、育成に関する相互の交流を通して、教員の「養成・採用・育成」の一体的な連携の推進を図っていきたく思います。本日は、自由闊達な意見交換をお願いします。」

【第1部】教育委員会事務局から

1 ～横浜の魅力について～「働き方改革の推進」(石田教育政策推進課担当課長)

本市が目指す働き方改革は、単なる勤務時間の縮減策ではなく、学校全体の在り方を問い直し、学校の質的向上を目指すものです。『先生の Happy が子どもの笑顔をつくる』を基本姿勢に、「時間外勤務が月80時間超の教職員の割合を0にする。」等の具体的達成目標を掲げています。

何より、子どもたちの身近な存在である教職員が、誇り、情熱、やりがいを持ち、心身共に健康で生き生きとした姿で子どもたちと向き合うことが、子どもの豊かな学びや成長につながります。

横浜市教育委員会は、働き方改革プランに示した取組を複合的に進めていくとともに、学校と両輪となって改革を推進していきます。(右上に続く)



2 ～大学等との連携・協働の取組について～(山本教職員育成課長)



I 平成30年度取組の報告

①人材育成指標〈管理職版〉の改訂、②「効果的・効率的な教育実習」の実施、③学校体験活動の充実、の3点について協議を行いました。①については、昨年度改訂版を発行しています。②の成果については、教育実習サポートガイド別冊(事例・アドバイス集)や動画「教育実習のこれから」※を御覧ください。③については、立ち上げの年度に比べ、よこはま教育実践ボランティアの実施学生数が2.2倍、本市での学校インターンシップの実施学生数が2.4倍と大幅に増加しています。

II 令和元年度の方向性

本市では、国の動きに先がけて、平成26年から大学と協定を結び、協議会を開催し、平成30年度までの5年間で、主に教員の養成に関することについて協議を行ってきました。今後は、養成にとどまらず、採用後の育成についても連携し、教員の養成・採用・研修を通じた一体的な取組を行っていきたくと考えています。

また、今年度は、年2回の協議会のうち1回を、大学の方々と本市の関係者が交流できる「教員の資質・能力の向上についての取組発表会」として、12月20日に行う予定です。

※Web「横浜市教育センタートップページ」→「大学連携」 <http://www.edu.city.yokohama.jp/tr/kv/k-center/daigakurenkei.html>

【第2部】分科会グループ協議

第1部後半で、①人材育成指標〈教員版〉の作成、②特別支援教育に係る人材育成、③横浜の未来を創る教職員の養成・育成、の3点について、教育委員会事務局から問題提起を行い、それについての協議を4つの分科会に分かれて実施しました。



教育実習サポートガイド
教育実習のこれから

第1分科会 人材育成指標〈教員版〉の作成について

人材育成指標〈教員版〉の改訂に向けて、特に授業力の部分と着任時の姿について協議を行いました。また、養護教諭版、学校栄養職員・栄養教諭版についても協議を行いました。現在の課題や今後教職に求められる資質・能力について主に確認しました。令和元年度末の改訂を目指します。

第2分科会 特別支援教育に係る人材育成について

特別支援教育に係る、教員の保護者対応を含むコミュニケーション力について協議を行いました。その中で「教員は障害の有無に関わらず、子どもの困り感を察する力が必要。」「特別支援学校での介護等体験の時などに、保護者からの講話や、保護者と学生が対談する機会などをつくっていく必要があるかもしれない。」などの意見が出ました。

第3分科会 横浜の未来を創る教職員の養成・育成について

教員のなり手不足の解消、研修等の質の向上、養成との円滑な接続の3点について協議を行いました。なり手不足解消については、「学生時代にもっと学校を知る機会をつくる。」「民間の採用を意識した採用時期の設定が必要。」等の意見が、研修等の質の向上については、「大学教員も協力できる。」という好意的な意見が多く出ました。

第4分科会 校内における教員の資質・能力の向上、及び、働き方改革の推進

OJT協力校の情報交換会に大学教職員が加わる形で、校内OJTについての協議を行いました。行いたい内容として「社会人として得意分野を増やす。」「学校教育目標を若手教員中心に作成。」「ユニバーサルデザインを意識した授業づくり。」「大学と連携し学生と若手教員による協議を実施。」「コーチングスキルを身に付け、子どもや保護者との信頼関係を構築」などの意見が出ました。

★「大学連携だより」はYCAN教職員育成課ページから、PDF版をダウンロードできます。各校におかれましては、教職員の皆さんへの配付や校内での掲示等、情報共有への御協力をお願いいたします。

大学連携だより 第32号



令和元年6月27日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

教員を目指す学生たちが頑張っています！

よこはま教育実践ボランティア等の学校体験活動は、教員を目指す学生にとって、実践の体験を学ぶ場になっています。これらの活動を通して、学生は成長し、教員を目指す意志がより強いものになっていきます。また、受入校にとっても、学生の支援があることで、教育活動の充実を図ることができます。このように、学校体験活動は学生にとっても、受入校にとってもプラスになる活動です。

学校体験活動の受入校に、活動の様子を伺いました。

◆ 第49回運動会でのボランティア (港南台ひの特別支援学校)

「将来は教員になります」と力強く語っていた5名の大学生が、5月18日(土)にボランティア活動を行いました。参加した大学生の声を一部紹介します。



- 初めは、目の前にいる子どもが何を求めているのか分からずに戸惑うことがありましたが、だんだんと、目の前の子どもが何を思っているのかを想像し、自ら行動することができるようになりました。
- 先生方は一人だけを見ているのではなく、常に全体を把握している視野の広さがとても印象に残りました。
- クラスや学部・学年関係なく児童生徒に声をかける姿を見て、教育現場では連携が大切なことを再確認しました。

● 最初は先生方に頼まれたことをただこなすだけでしたが、周囲を見て、自分がやるべきこと・自分に求められていることを考え、行動できるようになりました。

● 子どもと目線を合わせ、場面に応じた適切な判断・行動・支援ができるようになりたいです。今回の経験を生かし、積極的に人と関わっていきたいと思います。



◆ 宿泊行事、個別支援学級でのボランティア (日吉台中学校)

自然教室をはじめとした宿泊行事や、個別支援学級の活動に、大学生がボランティアとして参加しています。今年度は自然教室に7名、修学旅行に1名参加してもらいました。

教員の補助として活動してもらおうのですが、学校としては、教員だけでは人手が足りないところや、目の行き届かないところもカバーしてもらえたり、生徒たちと年齢が近いこともあり、生徒たちと同じ話題でコミュニケーションをとり、積極的に関わってくれたり、とても助かりました。

今年度、ボランティアに参加してくれた大学生のうちの一人の宮原将文さんは「教員が、修学旅行でこのように動いていたとは、今まで知らなかった。」と口にするのと同時に「(ボランティアに参加することで)立場が生徒ではなく教師になり、『生徒のためにどうすればよいのか』を理論だけでなく、身をもって体験したことで、『教師とはどうあるべきか』を考えることができた。」と、このような機会を得たことに感謝してくれました。

学校で実際に生徒と活動を共にすることで、今まで学んだことを、身をもって理解できるのと同時に、『教師を目指す志』がより高まるのもボランティアの良いところだと思います。



(一番左が宮原さん)

◆ 長期的なボランティア (いぶき野小学校)

現在、よこはま教育実践ボランティア、教育支援隊、インターンシップ等で9名の学生ボランティアが活動しています。内容は、学級内で配慮が必要な児童への励ましや、休み時間の遊び相手等です。児童や職員と関係ができる中で、学生も自主的に取り組み方を変えたりしています。

【学生ボランティアから】

「長期的に一人の子どもやクラスを見ているので、子どもたちの変化を目の当たりにできることが魅力だと思っています。子どもたちが過ごす環境が、居心地の良い場所と思えるよう意識して活動しています。」



【児童支援専任から】

「クラスでの一斉指導では、理解が不十分な児童や、集団で学習や生活が難しい児童に対してサポートしてくれるので、担任は全体指導に集中でき、とても助かっています。学生自身も多くのクラス、多様な児童に関わる中で一人ひとりに寄りそうことの大切さ、難しさを学んでいます。学校体験活動の経験が長い人ほど、より多くの児童に関わり、多様な対応ができるようになってきています。」

よこはま教育実践ボランティア Information

【市立学校へのお知らせ】 7月1日からC期(9月中旬実施~)の活動登録が始まります。
【大学等へのお知らせ】 現在B期の活動募集を行っています。学生へお知らせください。

大学連携だより 第31号



令和元年5月8日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

教育実習

そろそろ今年度の教育実習が始まります。教育実習の指導は、後進を育てるためにはなくてはならないものです。学校にとって負担もありますが、是非、教育実習生に、本市のよさや教員の魅力を伝えてください。



教育実習の実施に当たり、次の内容を御確認ください。

学校における打合せの際の事前指導

実習内容についての打合せだけでなく、**教育実習の意義や注意事項等**についても必ず指導してください。**実習生の貴重品の管理や、個人情報等の連絡**も必ず行ってください。

どの教科書を使用するのか、学習指導案は大学の書式でよいのか等の確認も行いましょう。

小・中・義務教育学校の場合は、打合せの前に学生が、「**横浜市教育実習連絡カード**」を提出しますので、指導計画の参考にしてください。また、同カードには、実習生が日誌を手書きで記入するか、PC入力を行うか、についても記載してあります。実習生が手書きの場合でも、学校記入欄はPC入力・貼付けが可能です。

また、今年度から、大学が許可した場合、**実習日誌の日々の活動欄の部分**を、**電子フォーム**に記入することもできます。大学が電子フォームを利用可とするかどうかは、「横浜市教育実習連絡カード」に記載してあります。利用する場合、**電子フォームは学校で御用意**ください。YCANからダウンロードができます。

評価票は「横浜市教育実習評価票」を必ず使用※

※高校、特支、栄養教育実習を除く
小・中・義務教育学校の教諭・養護教諭の実習では、「横浜市教育実習評価票」を使用します。大学の評価票が送付された場合、記入せず返送してください。評価票の**電子フォームは学校で御用意**ください。YCANからダウンロードができます。

実習生を指導する際の留意点

実習生へのハラスメントの防止、実習生の健康面への配慮、帰宅時間の配慮等についてよろしくお願いたします。また、**実習中に事案が発生した場合には、教職員育成課への御連絡**をお願いいたします。

教育実習サポートガイド

(サポートガイド(小・中・高・義用)、特別支援学校編、養護教諭編、別冊)
具体的な指導計画立案の手順等を明記しています。また、別冊では、柔軟な運用のモデル例や、教員等からのアドバイスを掲載していますので、是非、御利用ください。

横浜市教育実習評価票、実習日誌電子フォーム、教育実習サポートガイド等のダウンロード
YCANトップ「区局Web」をクリック → 「教育委員会事務局」をクリック
→ 「教職員育成課」をクリック → 「大学連携関係」をクリック → ★ 教育実習

教育実習に関する質問



Q1 規定の授業数はありますか？

法律では定められていません。学校の事情や、実習生の資質・能力を踏まえ、最適な授業時数を設定しましょう。大学が目標授業時数を提示する場合がありますが、それが達成できそうもない状況のときは、大学担当者と相談し、適した時数で行いましょう。

Q2 まとめの研究授業の実施は必須ですか？

まとめの研究授業や全日経営の実施は法律では定められていません。教育実習サポートガイドに、まとめの研究授業を行う事例、行わない事例を記載していますので参考にしてみてください。

Q3 実習日誌の指導教員が記入するコメント欄が大きい場合、全て記入しなければいけないのですか？

教育実習サポートガイドにも記載してありますが、必要事項を記入していただければ、欄を全て埋め尽くす必要はありません。

学校から頂いたコメント

平成31年2月6日付 教教育1047号「教育実習に関するアンケート」から

■平成30年度第2回 大学連携・協働協議会に参加させていただきました。そこで協議した、効果的・効率的な教育実習が学校でも広まると、これから担当になる教職員の育成にもつながると強く感じました。日誌のPC入力化はとてもよかったです。今後は、実習生が真似したくなるような、魅力的な授業展開ができるようになるとうれしく感じました。



■将来の学校を背負っていく学生を育てる第一歩となる機会なので、今後も充実したものにしていけるとよいと思っています。また大学の先生が授業を参観する機会を利用して、その先生が研究している内容を教職員に話をする機会があると、教職員研修の一環にもなるのではないのでしょうか。今後の校内研究の参考にもなると思います。

■教育実習は、教職に就く学生たちのアンカーではなく、バトンパスをする立場にあるという考え方が、横浜市全体に浸透していくとうれしく思います。そして、経験の浅い教員がどんどん指導教官になっていく道が開けるとよいです。採用年数の浅い教員が、経験値の高い教員に質問や相談をしながら教育実習生の指導を行う姿を、実習生が目当たりによって、教員同士が連携していることを知ることができます。またこの経験により、実習生自身が実際に教員になったときに、分からないことを積極的に仲間に質問、相談をしやすくなると思います。

教育実習実務担当者を対象としたeラーニング

教育実習の実務担当者(実習生の受入手続きや実習計画の作成・運営等を行う方)を対象とした、eラーニング(必須)の実施をお願いしています。まだ受講していない方は、本紙面左下のYCAN大学連携関係ページからeラーニングをダウンロードし実施してください。

「教育実習サポートガイドの使い方」音声ガイド

教育実習サポートガイドを効果的に活用するための音声ガイド(約15分)を、是非、御利用ください。本紙面左下のYCAN大学連携関係ページの「音声ガイド」を再生しながら、「教育実習サポートガイド」を御覧ください。

★「大学連携だより」はYCAN教職員育成課ページから、PDF版をダウンロードできます。各校におかれましては、教職員の皆さんへの配付や校内での掲示等、情報共有への御協力をお願いいたします。